

1年次開講科目

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	浜田 宏、中西 太 郎、渡邊 英幸、島崎 薫	1	水曜5限、 金曜4限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	島 越郎	2	水曜3限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	足達 薫	2	水曜3限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	原 塑	2	水曜3限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	小松原 織香	2	水曜3限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	高橋 原	2	金曜3限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	青木 聡子	2	金曜3限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	LYU ZEYU	2	金曜3限
英語原書講読入門	英語文献による人文社会 入門	2	小川 和孝	2	金曜3限
人文社会序論	中国古典学入門	2	齋藤 智寛	1	木曜1限
人文社会序論	日本語を分析してみよう	2	中西 太郎、菊地 恵 太	2	月曜3限
人文社会序論	文化人類学入門	2	川口 幸大	2	月曜3限
人文社会序論	インド学入門 仏教興起時 代のインドにおける宗教と 社会	2	西村 直子	2	月曜3限
人文社会序論	2セメスターからのフランス 語	2	武藤 奈月	2	火曜2限
人文社会序論	日本語教育学への招待	2	小河原 義朗	2	金曜2限
人文社会序論	宗教学入門	2	木村 敏明	2	金曜4限

科目名：人文社会総論

曜日・講時：水曜 5 限、金曜 4 限

Semester：1 単位数：4

担当教員：浜田 宏、中西 太郎、渡邊 英幸、島崎 薫

コード：LB00000, 科目ナンバリング：LHM-OHS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：人文社会科学の世界

2・授業の目的と概要：・この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1 Semesterに必ず履修する必要があります。

- ・毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の26すべての専修について、代表する教員が各1回講義を行います。
- ・文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。
- ・課題として合計4つのレポートを作成し提出してもらうことになります。
- ・第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず受講してください。
- ・受講のうえで不明な点などがありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。

3. 学習の到達目標：文学部の全専修の講義を受講し、関心あるテーマについてレポートを作成すること等を通して、人文社会科学に対する総合的、基礎的な思考力を身につけるとともに、専門を学ぶ上での目的意識や関心を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 中国思想の世界
3. 考古学の世界
4. インド学仏教史学の世界
5. 「現代日本学」の世界
6. 行動科学の世界
7. 英文学の新しいかたち
8. 哲学の世界
9. 東洋史の世界
10. 人間の心理と行動
11. 日本語教育学の世界
12. 日本思想史の世界
13. 大学で学ぶ西洋史
14. 日本文学の世界
15. ドイツ文学の世界
16. 日本語学の世界
17. 日本美術史の世界
18. 宗教学の世界
19. フランス語・フランス文学のこれから
20. 古代地中海美術の世界
21. 文化人類学の世界
22. 英語学の世界
23. 日本史の世界
24. 言語学の世界
25. 社会学の世界
26. 中国文学の世界
27. 倫理学の世界

*テーマ題目および順序は変更することがあります。

5. 成績評価方法：レポートの内容と授業への参加を総合して評価します（比重の目安は、レポート 60%、授業参加 40%）。

6. 教科書および参考書：東北大学文学部編『人文社会科学の未来へ—東北大学文学部の実践』東北大学出版会、2022年

7. 授業時間外学習：講義を受ける中で自分が関心を持ったテーマについて、講義中に紹介された文献などを手がかりに事象や事例について自分で調べ、レポートを書く準備をしてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず受講してください。レポート提出の要領についてもアナ

ウンスします。なお、毎時間、ミニットペーパー（コメント）を書いて提出します。

科目名：英語原書講読入門

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：2 単位数：2

担当教員：島 越郎、足達 薫、原 壘、小松原 織香、高橋 原、青木 聡子、LYU ZEYU、小川 和孝

コード：LB00011、LB00012、LB00013、LB00014、LB00015、LB00016、LB00017、LB00018、科目ナンバリング：LHM-OHS202J、

使用言語：日本語

1. 授業題目：英語文献による人文社会入門

2・授業の目的と概要：本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二年次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。

3. 学習の到達目標：(1)英語原書文献の読解力が身につく。

(2)文献の批判的講読の仕方が身につく。

(3)理論的思考力が身につく。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) イントロダクション
- 2) 学術英語の読解演習 (1)
- 3) 学術英語の読解演習 (2)
- 4) 学術英語の読解演習 (3)
- 5) 学術英語の読解演習 (4)
- 6) 学術英語の読解演習 (5)
- 7) 学術英語の読解演習 (6)
- 8) 学術英語の読解演習 (7)
- 9) 学術英語の読解演習 (8)
- 10) 学術英語の読解演習 (9)
- 11) 学術英語の読解演習 (10)
- 12) 学術英語の読解演習 (11)
- 13) 学術英語の読解演習 (12)
- 14) 学術英語の読解演習 (13)
- 15) 学術英語の読解演習 (14)

5. 成績評価方法：各担当教員が授業開始時に指示します。

6. 教科書および参考書：各担当教員が授業開始時に指示します。

7. 授業時間外学習：予習段階であらかじめ教材に目をとおしておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

1～4 クラスは水曜日 3 校時

5～8 クラスは金曜日 3 校時

科目名：人文社会序論

曜日・講時：木曜 1 限

セメスター：1 **単位数：**2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LB00001, **科目ナンバリング：**LHM-OHS203J, **使用言語：**日本語、中国語（漢文）

1. 授業題目：中国古典学入門

2・授業の目的と概要：中国思想関係の原書講読を通じて、中国文化の学習・研究に必要な漢文の読解力を涵養し、関連資料調査の訓練をおこなう。講読テキストには、『論語』の注釈書を予定している。受講生は、漢文で書かれた注釈を頼りに漢文を読むという伝統的かつもっとも効果的な漢文学習法を体験することになる。

3. 学習の到達目標：句読点と返り点が施された漢文を読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 講義①：『論語』の受容と解釈の歴史
3. 講義②：辞書、事典、オンラインデータベースの紹介
4. 書き下し文講読 1
5. 書き下し文講読 2
6. 書き下し文講読 3
7. 書き下し文講読 4
8. 書き下し文講読 5
9. 古典資料書庫見学（附属図書館）
10. 中間試験
11. 漢文講読 1
12. 漢文講読 2
13. 漢文講読 3
14. 漢文講読 4
15. 漢文講読 5

5. 成績評価方法：中間試験[50%] 議論への参加度 [50%]

6. 教科書および参考書：必要な資料は適宜配布する。

7. 授業時間外学習：講読は予習復習をすること。授業中に紹介された書籍は、1冊以上は読んでみることに。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：人文社会序論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：2 単位数：2

担当教員：中西 太郎、菊地 恵太

コード：LB00002, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語を分析してみよう

2・授業の目的と概要：日本語は、われわれのもっとも身近にある言語である。とはいえ、実際にはわからないこともさまざまにある。その日本語とはどのような言語であるのか、また、その日本語はどのように運用されているのか。そのような課題に答えるのが、日本語学という学問分野である。ここでは、この日本語学の考え方にもとづいて、現代日本語をさまざまな側面から考えてみる。まず、はじめに日本語学の考え方や分野について概説する。その後、日本語についての調査・分析を参加者自身がおこなっていく。日本語の方言を含むさまざまな日本語についての考察、現代日本語の具体的な運用についての考察をすすめ、報告、議論をおこなう。

3. 学習の到達目標：(1) 日本語学の考え方、日本語をとらえる方法の基本を説明することができるようになる。

(2) 簡単な言語調査ができるようになる。

(3) 言語調査の結果を分析・報告し、それについて議論ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：ことばの意味

第 3 回：若者ことば

第 4 回：和語・漢語・外来語

第 5 回：会話の失敗

第 6 回：音声と文字

第 7 回：ことば遊び

第 8 回：話しことばと書きことば

第 9 回：あいまい文

第 10 回：カタカナ

第 11 回：マンガのことば

第 12 回：方言

第 13 回：丁寧体と普通体

第 14 回：漫才のことば

第 15 回：外国の人の日本語

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

5. 成績評価方法：講義内の課題・参加態度（70%）、レポート（30%）

6. 教科書および参考書：野田尚史・野田春美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店、ISBN:9784469213621
参考書は授業内で随時提示する。

7. 授業時間外学習：(1) ふだんから、身の回りにある日本語をよく観察し、講義にかかわるような現象がないか、また、自分自身で気になる現象はないか、随時考えた上で、この時間にのぞむこと。

(2) 授業内で指示された言語調査をおこなうこと。また、必要な分析をおこなうこと。

(3) 授業内で扱うテキストを事前に丁寧に読み、問題の回答を考え、疑問点を整理しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

定員は 20 名程度までとする。

受講者は、初回講義の際に課すレポートの内容により決定する。

出席回数 2/3 未満の者は単位を認定しない。

受講者の積極的な参加・活動におおいに期待している。

科目名：人文社会序論

曜日・講時：月曜 3 限

semester：2 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB00003, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：人文社会序論

1. 授業題目：文化人類学入門

2・授業の目的と概要：文化人類学とは、主としてフィールドワークを通じて異文化について研究し、そこから相対的な視野と思考力を養おうとする学問である。この授業は文化人類学の入門である。文化人類学の基礎的な知識を学び、フィールドワークの体験を通して、この学問の特徴を知ってもらいたい。

授業は大きく分けて、①文化人類学の考え方についてのレクチャーと討論、②フィールドワーク体験、③民族誌の講読、④レポートの作成の4つから成る。主な内容は、講義を聴き、議論し、課題をこなしてゆき、最終的にレポートを作成することである。

3. 学習の到達目標：文化人類学がいかなる学問で、どのような考え方と方法のもとに研究を進めていくのかについての基礎を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 授業の概要
2. 文化人類学の考え方① 文化とは、人類とは？
3. 文化人類学の考え方② あなたの大切な人は誰ですか？：家族・親族
4. 文化人類学の考え方③ 恋人と夫婦の違いは？：結婚
5. 文化人類学の考え方④ 男/女とは？：性とジェンダー
6. 文化人類学の考え方⑤ 世界をどう見るか、何を「信じる」か？：宗教
7. 文化人類学の考え方⑥ 人類学の代名詞：フィールドワーク
8. フィールドワークをしてみよう① 非参与観察とインタビュー入門
9. フィールドワークをしてみよう② 公園での非参与観察報告会
10. フィールドワークをしてみよう③ インタビュー報告会
11. 文化人類学の考え方⑦ 区切りをつける：儀礼
12. 文化人類学の考え方⑧ 儲かることはよいことか？：経済、贈与と交換
13. レポートを構想する
14. レポート構想発表会
15. まとめ：文化人類学を学んで

5. 成績評価方法：レポート [40%]、出席・討論参加 [20%]、最終レポート [40%]

6. 教科書および参考書：『ようこそ文化人類学へ』川口幸大著、2017、昭和堂

7. 授業時間外学習：毎週、その回の授業内容に沿った課題を出す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：人文社会序論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：2 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB00004, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：インド学入門 仏教興起時代のインドにおける宗教と社会

2・授業の目的と概要：本授業では、A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion (アージーヴィカ教の歴史と教理. インドの消滅した宗教) (London 1951) 原文の講読を通じて、仏教興起時代（紀元前 5 世紀頃）に至るインドの宗教と社会の成り立ちを紹介する。受講者は予習として Basham の英語原文を和訳し、その内容について講師が解説する。サンスクリット語、パーリ語、並びにこれらの言語で伝承される原典についても随時紹介し、インドの言語文化に直接触れることのできる機会を提供する。

3. 学習の到達目標：仏教興起時代におけるインドの宗教と社会の成り立ちについて、初歩的な理解を得る。サンスクリット語、パーリ語についての理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション インドの歴史と言語
2. 講義① 仏教前史
3. 講義② ブッダの生涯 誕生から出家まで
4. 講義③ ブッダの生涯 出家から涅槃まで
5. ー7. 講読ならびに解説
8. 講義④ 仏典『沙門果経』
9. 講義⑤ インド仏教史
10. ー14. 講読ならびに解説
15. まとめ

※上記は必要に応じて変更する場合がある。

5. 成績評価方法：授業の準備状況 30%，授業及び提出物で示される理解度 30%，期末レポート 40%

6. 教科書および参考書：A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion.

7. 授業時間外学習：講読に際しては和訳を準備すること。

講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：人文社会序論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：2 単位数：2

担当教員：武藤 奈月

コード：LB00005, **科目ナンバリング：**LHM-OHS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：2 セメスターからのフランス語

2・授業の目的と概要：フランス語文法の基礎を学ぶことを目的とします。第二外国語等としてフランス語を履修していない初心者、あるいは履修経験はあるが基礎から一通り学び直したい学生を対象とします。2 セメスターの間に初級文法部分を終えるスケジュールです。比較的進度が早いので、積極的な参加が必要です。

3. 学習の到達目標：フランス語文法の基礎知識を用いて、簡単な文章を理解・運用できるようになります。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回:イントロダクション及びフランス語の発音について
- 第2回:Leçon 1 (名詞の性・冠詞など)
- 第3回:Leçon 2 (直説法現在の活用)
- 第4回:Leçon 3 (否定文・疑問文)
- 第5回:Leçon 4 (形容詞)
- 第6回:Leçon 5 (所有形容詞)
- 第7回:Leçon 6 (部分冠詞)
- 第8回:Leçon 7 (疑問形容詞)
- 第9回:Leçon 8 (疑問代名詞)
- 第10回:Leçon 9 (補語人称代名詞)
- 第11回:Leçon 10 (命令法)
- 第12回:Leçon 11 (複合過去・受動態)
- 第13回:Leçon 12 (半過去・代名動詞)
- 第14回:Leçon 13 (単純未来・中性代名詞)
- 第15回:Leçon 14 及び Leçon 15 (条件法・関係代名詞・接続法)

5. 成績評価方法：平常点 (100%) :出席回数や宿題への取り組み、授業内活動への参加、小テスト (実施した場合) を総合的に評価します。

6. 教科書および参考書：教科書:渡辺隆司・須田正樹『ディアグラム [新訂版] ー運用力のつく仏検対応フランス語文法ー』、三修社、2019 年。
参考書及び辞書については初回の授業中に解説します。

7. 授業時間外学習：教科書の練習問題を毎回の宿題とします。その他、教科書の音声を聞いたり、例文中の語彙を辞書で調べたりするなど、各自の予習復習が不可欠です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：人文社会序論

曜日・講時：金曜 2 限

semester：2 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB00006, **科目ナンバリング：**LHM-OHS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語教育学への招待

2・授業の目的と概要：日本語教育学とはどのような研究・学問領域なのか、どのようなおもしろさや社会的役割があるのか、そして日本語を教えるとは具体的にどのようなことなのかについて、様々な活動を通して理解する。

3. 学習の到達目標：・日本語教育について理解する

- ・日本語教育の社会的役割を理解する
- ・日本語教育学の研究について理解する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

スケジュール（予定）

- 1 オリエンテーション
- 2 日本語教育と社会
- 3 日本語学習者
- 4 日本語教師
- 5 学習シラバス
- 6 コースデザイン
- 7 誤用分析
- 8 日本語の文字表記
- 9 日本語の音声
- 10 日本語の語彙
- 11 日本語の表現
- 12 学習ストラテジー
- 13 談話分析
- 14 授業デザイン
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：課題 50%、レポート 50%

6. 教科書および参考書：教科書は使いません。参考書等は授業内で随時提示します。

7. 授業時間外学習：毎回事前課題が出るので、準備して臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

日本語教育学専修を希望、あるいは検討している文学部 1 年生が主な対象です。日本語教育学専修を希望する学生はなるべく履修してください。日本語教育に興味関心がある学生も歓迎します。クラスは、講義ではなく、参加学生によるディスカッションやプレゼンテーション、模擬授業（第二外国語）が中心になります。

科目名：人文社会序論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：2 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB00007, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学入門

2・授業の目的と概要：本授業では、宗教学の基本的なものの見方と主要なテーマについて、次のような方法で理解することを目指す。具体的には、次のような内容を含む。

- 1、宗教学の基本的なものの見方について、教員が簡単な講義を行ったのちに、討論を行う。
- 2、宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べて発表をする。
- 3、活きた宗教に触れる。幾つかの宗教の信者、あるいは宗教者にそれぞれの宗教について語ってもらい、議論をする。

3. 学習の到達目標：宗教学の基本的な知識と技法を身につけることができる。
現代の宗教をめぐる諸問題について知ることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション

2. 準備作業
3. 講義と討論 1. 宗教とは何だろう
4. 講義と討論 2. 教育と宗教
5. 講義と討論 3. 宗教の社会貢献
6. 講義と討論 4. 宗教的寛容とは
7. 新聞発表準備
8. 新聞発表 1.
9. 新聞発表 2.
10. 新聞発表 3.
11. 新聞発表 4.
12. 活きた宗教に触れる 1. 神仏への願い（神社調査を予定）
13. 活きた宗教に触れる 2. 日本におけるイスラーム（仙台マスジド代表による講演を予定）
14. 活きた宗教に触れる 3. 宗教による社会貢献の新展開（臨床宗教師による講演を予定）
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業中の発表、議論への参加状況。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：プレゼンテーションのための情報収集と準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：